

鶏の改良増殖をめぐる議論のポイント

鶏の改良増殖の現状

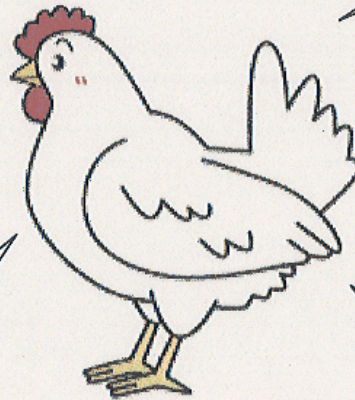
- ・わが国のコマーシャル鶏の大部分が、海外の育種資源に依存
(卵用鶏 93%、肉用鶏 99%)
- ・国産鶏のシェアは低下

産卵性・産肉性だけの改良でいいのか？

- ・産卵量、産肉量等の伸び率は鈍化
- ・国産鶏卵・鶏肉として、わが国の消費・流通ニーズに的確に対応した改良が必要

これ以上の能力向上は必要か？

- ・生産コストの低減、商品化率の向上等のため、飼養・衛生管理の改善だけでなく、遺伝的能力の向上が必要



国産鶏の改良増殖を強化すべきではないか？

- ・斉一性やひなの供給能力の問題等により、国産鶏の普及は停滞
- ・わが国の消費者ニーズ、気候風土に適応した鶏の改良・普及は重要
- ・地鶏等の改良は、国内の遺伝資源に依存

鶏の飼養管理・形態を見直すべきではないか？

- ・生産性、衛生管理の観点から、鶏の能力を最大限引き出すための技術開発が進展
- ・動物福祉の観点から、EU等においては従来型のケージ飼育を見直す動き

地鶏等特長ある系統の位置づけは？

- ・都道府県では、地鶏等を活用した実用鶏の作出が主体
- ・品種・交配様式の違いによる能力差が大きい